

■第73回 河川レンジャー制度運営委員会（2024.12.9）議事録

◆出席：中谷委員、北井委員、平山委員、沼田委員、若公委員

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, O印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
1. 開会	△長谷川	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本日は、ご多忙の中、河川レンジャー制度委員会にご出席賜り、お礼申し上げます。定刻となりましたので、第73回河川レンジャー制度運営委員会を開会いたします。私は、琵琶湖専門調査官の長谷川と申します。よろしくお願いたします。</li> <li>・本日の委員会でございますが、過半数以上の出席により成立していることを報告いたします。</li> <li>・本日は、公開及び非公開の議事がございます。公開の議事では、主に河川レンジャーの活動継続に向けた環境整備について、非公開では新規河川レンジャーの審査について審議いただく予定でございます。</li> <li>・以降については、河川レンジャー活動支援室から確認させていただきます。よろしくお願いたします。</li> </ul>
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援室の中西と申します。委員会の配付資料のご説明でございます。お手元に配付資料、議事次第の中に配付資料と書いてございます。本資料が資料-1から資料-4というのがございます。それから、1枚、委員名簿というのがございます。それから、参考資料としまして5種類ございます。説明の中で使いますが、もし落丁してございましたら事務局まで申し出てください。</li> <li>・続きまして、今日、ご出席いただいております委員の皆様、紹介させていただきます。ご都合によりウェブでの参加の方もいらっしゃいますが、この会場のほうでは、委員長の中谷委員でございます。それから、副委員長の北井委員でございます。それから、行政関係者ということで若公事務所長でございます。それから、ウェブのほうでご参加いただいておりますのが滋賀県土木交通部の沼田室長でございます。公務の関係で出入りがあるということをお聞しております。</li> <li>・それから、平山委員でございますが、現在、東京からリモートで入ると聞いておりますが、少し遅れての入室になるということです。</li> <li>・それから、河川レンジャーの方も参加いただいております。この会場では水上レンジャーがいらっしゃいます。それから、ウェブのほうでは根本山レンジャー、野村レンジャーに入っております。</li> <li>・そうしましたら、委員の皆様をご紹介しましたので、これよりの議事のほう、議事次第でございますが、今回、報告と審議とございまして、また非公開審議を後ほど控えさせていただきますが、進行のほう、中谷委員長、よろしくお願いたします。</li> </ul>

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, O印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
2. 報告 (1) 前回委員会の振り返り	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・では、進めさせていただきます。委員の皆様、レンジャーさん、今日は参加ありがとうございます。よろしくお願いします。</li> <li>・では、今もございましたとおり、まず次第にのっとして報告事項、1番目の前回委員会の振り返りということで、その点、事務局から説明をお願いします。</li> </ul>
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局より、前回委員会の振り返りということで、参考資料-1でございます。第72回の委員会のほうは6月4日に開催しております。その後、議事録、それから議事要旨のほうを委員の皆様にご確認いただき、ご指摘いただいたところを反映したものを今回ご用意しております。つきましては、一々の報告は割愛させていただきますけれども、前回の会議では、委員長の中谷委員、それから副委員長の北井委員が選出されて、引き続きお願いすることになったということと、3人のレンジャーの皆様が承認されて、今年度の活動に至っているというところでございます。簡単ですが、以上でお願いいたします。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございました。</li> <li>・この点はもう既に委員の皆様にもご承知おきいただいているところと思いますので、次に進めさせていただきます。</li> </ul>

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, O印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
2. 報告 (2) 河川レンジャー活動支援室からの報告	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・では、2番目の支援室からの報告をよろしくお願いします。</li> </ul>
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お手元の資料-1をご覧ください。</li> <li>・活動支援室からの報告ということで、支援スケジュールを1ページのほうに掲載しております。4月から3月にかけてのスケジュールでございまして、現在12月までが終わっており、残る12月後半から3月までの予定を掲載しております。</li> <li>・既に今回で委員会は2回、それからレンジャーの研修を1回、意見交換を2回開いてございます。また、河川レンジャーの活動を広報するレポートを2回発行しております。</li> <li>・続きまして、2ページ、3ページですが、支援室から活動報告を特にさせていただきたい点が2つございます。特に、4番と6番を報告させていただきたいので、そのほか簡単に説明いたします。</li> <li>・2番目が河川レンジャーの募集状況ということでございます。1名、このタイミングまでに応募がございました。実際は8月に応募があり、現在、いろいろ河川レンジャーの勉強をされながら、今回、審査をお願いしたいと考えておりますので、後ほどよろしくお願いします。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それから、3つ目の話題、河川レンジャートライアルの募集状況、在籍状況ですけれども、現時点ではいらっしゃいません。</li> <li>・その代わりと言っては何なんですけれども、支援室のほうで、トライアルの活動がなかなか続かなかつたり、うまく進められていないところもあって、単発のトライアルといいますか、河川レンジャーの活動にサポートしてくれる方、こういう方がいたら、今までは河川レンジャーの活動に参加される方を応募されたり、レンジャーさんが応募されたりしていたんですけれども、運営スタッフとして参加しませんかという呼びかけを支援室のほうからさせていただきました。これは新しい取組でして、この委員会のほうでも報告するのは初めてなんですけれども、この秋以降にちょっとそういう試みをしてみたいなということで、支援室のほうで取り組んでみました。</li> <li>・これは、大学ですとか、レイカディア大学といったような、市民ボランティアの組織のところに、レンジャートライアルですとか、レンジャーの募集を紹介しに行くついでに、こういった単発で参加もしませんかという呼びかけをしてみたということで、ネーミングは委員会で決まったわけではないんですけれども、分かりやすいネーミングということで、河川レンジャー活動サポートボランティアというような呼び名を考えまして、こういったところでちょっと応募をかけてみたというところがございます。</li> <li>・実際、秋以降、4回の活動を対象として募集をしたところ、延べ6名の方が参加くださりまして、レンジャー活動を体験していただいたというところがございます。</li> <li>・何をされたかといいますと、3ページの表2のところに、ボランティア内容というのがありますように、例えば根木山さんの希少植物の移殖活動というような活動ですと、希少植物の移殖作業をサポートいただくというようなところで、参加者に説明をしていただいたりというようなことをさせていただきました。</li> <li>・また、10月26日とか11月21日の清掃活動とかですと、ごみの分別ですとか、受付とか、そういうところにサポートいただいたり、また野村レンジャーの瀬田川たんけん隊のほうでも、各所で活動のサポートをいただいたというようなことで参画いただいたというようなところがございます。</li> <li>・そういったところで、活動終了時にアンケートもさせてもらって、レンジャーの目的とか、やりがいとか、どうでしたかというのを聞いてございます。そうすると、毎回、レンジャーの意義ですとか興味とか、こういったところは、すごく「はい」というふうに、全員が答えていただいているというようなところがございます。</li> <li>・また、感想には、直接レンジャー活動の進め方の感想とかが多くいただいておりまして、こちらは、また河川レンジャーさんのほうにも伝えて、今</li> </ul>
--	---

	<p>後の活動の参考にいただければというような自由回答をいろいろいただいております。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ したがいまして、こういった1回の活動でもレンジャーの制度ですとか、そんなところも体験いただいて、いい説明の機会になるなということは、支援室のほうでも分かってきたというようなところでございます。</li> <li>・ 実際、今日、傍聴、お二人来ていただいているんですけども、その方々も参加いただいた方で、非常に興味を持っていただいたというところで</li> <li>・ それから、5番目の話題ですね。河川レンジャー活動勉強会の開催ということで、8月に一度、AEDですとか、心肺蘇生、活動に携わるときの応急救命、こういったところの勉強をしていただきました。</li> <li>・ それから、5ページ目なんですけれども、河川レンジャーの方と河川事務所の方、それから今回は委員の方とも交えまして、意見交換会を開催させていただきました。</li> <li>・ これはなかなか制度運営委員会では一方通行になっていたり、なかなか聞けないような話題を、こういった機会を持たすことによって、いろいろ深掘りして聞いてみようというようなこともあって、制度ではないんですけども、運営の中でどんな工夫があるかというのをちょっと聞いたようなところでございます。</li> <li>・ テーマ1、テーマ2と2つの話題で意見交換をしたわけですけども、今回は今年度のテーマとして、河川レンジャーの現役の方が活動の内容に、計画に合わせて、季節柄いろいろ変動する中で、コンスタントに活動してくださいよという流れが今まであったんですけども、どうしてもそのこだわりがあるのか、もう少しフレキシブルに月ごとに動けるのかというところを、もうちょっと極端な事例も交えて確認してみるということをさせてもらいました。</li> <li>・ その結果、整理しておりますが、委員の皆様も事務所の皆様も、統一した見解としては、今まで月4回、1回4時間の活動をコンスタントにしましょうねというような体になっていたんですけども、そこは廃止してもよいと。その増減数とか、1回4時間というような増減についても、そこはフレキシブルに考えてもいいというようなところですよ。</li> <li>・ それから、極端に活動がない時期もあってもいいのかというところで、それはあっても構わない。1年間の活動は、どんどん増えてしまったらどうするのかということで、そこは謝礼を支払う時間というのは、そこは最大の時間というのはこれまでと変わらず192時間というのはありますよというのは確認できたことです。</li> <li>・ 上記を踏まえてというところがありますけれども、とにかく年間活動計画をつくってもらうわけで、そこで承認をされたものは、基本としてあって、</li> </ul>
--	---

	<p>その中で4時間の縛りですとか、月4回の縛りは変わっても、活動がない月があっても、これは計画の中でそういう承認を受けているので構わないというような理解の仕方でも今後活動をしていただくということになったのかなと思っております。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は、もう春に活動の計画の承認ができておりますので、ほぼほぼ年間を通して、毎月いろんな活動をしますというような計画で認めていただいている活動がございますので、これで進んでいるというところがございます。</li> <li>・ですので、極端なない月があってもということは、次年度以降、出てまいるかもしれません。</li> <li>・それから、中間報告の様式の任意化ということで、ここはいつも形式的な決まった様式をレンジャーさんを書いていただいて、きっちり報告もしていただいていたんですけども、ここについては、自由な様式で構わないというようなことになりました。</li> <li>・最後、6ページですね、河川レンジャーレポートということで、夏の活動、それから秋の活動をまとめて、多くの、広く皆様に公開する資料をつくりましたということで、ホームページにも載せさせていただいております。</li> <li>・以上で支援室からの報告でございました。</li> </ul>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい、ありがとうございます。</li> <li>・ただいま報告をいただきましたことに関して、先に私から1点。レポートの配布先、範囲ですね、どんな感じかというのを教えてください。</li> </ul>
△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今のところは、河川レンジャーをされている各事務所に出しているのと、滋賀県さん、それから各大学、滋賀県の龍谷大学ですとか、立命館大学とか、滋賀県立大学さんとか、今回お世話になっている河川レンジャーの説明とかをやっている場所に、あとレイカディア大学とか、そういったところにはレポートも送るようにしております。</li> </ul>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。確かに、野洲川ですと、根木山さんとか水上さんとか、あと野村さんが活動してもらっているフィールドがありますね。だから、例えば今聞いた大学とか、そういうところも大事なんだけど、例えば野洲川の沿川の地域、自治会的なところまで行き渡るか分かりませんが、要はレンジャーさんに接する機会が多いであろう地域については、考えていただくといいのかなというふうに思っています。</li> <li>・あと、今のページの後ろのほうから逆に行きますけれども。議論しました、要は活動に変動があってもいいというのは、委員の皆様も議論していただいて、それはもうレンジャーさんがやりやすい方向で進めるというのは、もう確認できたかなということで、大変いいなというふうに思っておりますし。</li> <li>・あと制度的な関係ですけれども、サポートボランティアですね、そういう</li> </ul>

		<p>取組も、要は構成としてピラミッド的に裾野が広がるところが非常にうまくいくのかなと思って期待しております。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>委員の皆様から何か、今、報告をもらった件について、何かございますでしょうか。よろしいですか。沼田委員、よろしいですか。</li> </ul>
	沼田	<ul style="list-style-type: none"> <li>では、1点だけ。ボランティアに参加された方は、大学生が多いのか、教えていただきたい。延べ人数6名ということですが、複数参加されている方もおられると思いますので、実際の人数が何人か教えてください。</li> </ul>
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>分かりました。実際の人数は3人でございます。お二人の方が複数回参加いただいたところですね。</li> </ul>
	沼田	<ul style="list-style-type: none"> <li>あと、大学生がほとんどですか。</li> </ul>
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>今のところ、社会人の方が参加いただいております。</li> </ul>
	沼田	<ul style="list-style-type: none"> <li>3名とも社会人の方という。</li> </ul>
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>そうですね、はい。</li> </ul>
	沼田	<ul style="list-style-type: none"> <li>分かりました。ありがとうございます。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>ありがとうございます。では、ほかにないようでしたら、次へ移らせていただきますが、よろしいでしょうか。</li> </ul>

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, O印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
3. 報告 (3) 河川レンジャー活動状況について	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>では、河川レンジャーさんの活動状況についてということで、3人さんからですね。では、進行は事務局のほうからお願いできますか。</li> </ul>
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>はい、分かりました。資料2をご覧ください。2024年度の河川レンジャー活動状況ということで、今回、年も深まって12月ということで、ある程度もう河川レンジャーの活動も終盤になってきている中での中間報告ということで、これは進める事務局のほうも中間という中では時期が遅いということで反省しているわけですが。</li> <li>今回、ある程度河川レンジャーの方への負担も軽減するという趣旨の中で、前回意見交換会でご意見を伺いました新しい様式に、事務局のほうで河川レンジャーがなされた活動内容については記載して、特に成果として考えられたことですか、今後の課題みたいところを河川レンジャーの方に記載していただくというやり方で、報告も少し短時間にして、いろんな制度のことの質疑時間を多く取ろうということで、事務局のほうで半分ぐらい作成しました。</li> <li>開いていただいた1ページ目を書いてございますが、この意見交換会、10月の意見交換会ですね、これを受けて、今後の中間報告の運用としましては、必ずしも河川レンジャーの方の報告が、基本、河川レンジャーの方が報告していただくんですけども、できない場合は事務局が代理で報告す</li> </ul>

	<p>るということで、一つは考えたいなということ。次年度から中間報告は年度のなるべく早いとき、計画を見ていただいてから、なるべく早い時期に見直しですとかやってみて、相談事とかがある時期があると思いますので、9月とか10月の早い時期に開催して、下半期への活動に生かしてもらおうというような進め方をここで確認しておきたいなと思っております。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回、2ページ以降、河川レンジャーのお三方の中間的なといいますか、11月末時点の報告を記載してございます。</li> <li>・根木山レンジャーの活動をちょっと見ていただく中で、2ページ目から4ページ目の途中まで、ここまでは根木山さんが実際になされた活動内容、これを月間報告等々から事務局のほうで整理をしました。</li> <li>・特に、活動を通して得られた成果とか課題というところを、レンジャーさんに主に今回説明していただくことに、4ページの後半の部分ですね、ここをレンジャーさん自ら発言していただこうと思っております。</li> <li>・5ページのほうはおさらいで、計画として、年度の当初の計画と、実際やってみた計画を比べたものを用意しておりますので、前段、事務局が話をさせていただいて、要所のところをレンジャーさんのほうから話してもらおうと思います。</li> <li>・では、マネージャーのほうに代わって説明をお願いしたいと思います。</li> </ul>
△松岡	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レンジャーマネージャー松岡です。今から、前段部分、私のほうから、簡単にですが説明させていただきます。</li> <li>・まず、資料の2ページからが根木山レンジャーの状況報告となっております。根木山レンジャーは今年度、主に3つの柱といいますか、3つの大きい要素に分けて取り組まれるという計画をされました。</li> <li>・1つ目が野洲川上流部、主に栗東市域での取組。2つ目が野洲川中流部、野洲市域での取組。そして3つ目が野洲川下流部、守山市域での取組という形となっております。</li> <li>・詳しくは既にレンジャーご本人から委員会へは月ごとに活動報告をされておりますので、こちらではおおむね事実関係といいますか、そういったところを資料には落とし込んでいるものとなっております。</li> <li>・栗東市域、まず1番目でございますけれども、こちらのほうは既に計画どおり日付では8月、夏の時期に川遊び体験活動ということで、まず試行的に取り組まれました。参加についてはお示しのとおりなんですけれども、これを実施するに当たっては、栗東市さんとも調整をされ、体育館の使用のご支援ですとか、あとこの試行に当たって、実は職員の一家族がご参加されたというような形となっております。</li> <li>・2つ目、中流部、野洲市域での取組ですけれども、こちらのほうは、まずは活動の可能性について意見を聴取して、今後の河川利用の活動に向けて取り組んでいくというような形で今回計画をされておまして、まず今、</li> </ul>

	<p>お話しさせていただいた部分については、本日以降に具体的に検討に向けた動きをされるというふうにお聞きしております。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・加えてなんですけれども、中流域の野洲市域では、毎年呼びかけがあればお答えするという形で今年度も野洲小学校での出前講座の呼びかけがあったということで、先月25日に取り組まれております。</li> <li>・下流域、守山市域につきましては、長年継続的に取り組まれているというところもありまして、安定的にまずはこども園での川遊び安全指導、これは教員の方の指導も含めて取り組まれております。また、住民団体への活動支援ということで、今年度は6回取り組まれました。</li> <li>・最後に1点ですけれども、ちょうど4ページのところで、貴重植物の保全活動への取組というところで、実はこちらのほうは昨年河川事務所さんとの意見交換会で話題に上がった、工事を進める中で貴重植物があるんだというような情報提供を基に、事務所さんと詰められて、今年度工事のタイミングも合わせて適切な時期に実施しようということで10月に取組をされたというところでございます。</li> <li>・以上です。</li> </ul>
△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そうしましたら、根木山レンジャーに補足説明といたしますか、後半のところ、成果ですとか課題のところをご説明いただけますでしょうか。</li> </ul>
R根木山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・根木山です。よろしく申し上げます。聞こえていますでしょうか。</li> </ul>
△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大丈夫です。</li> </ul>
R根木山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。松岡さんにご紹介いただいたような形です。ちょっと活動レポートが9月以降出せていないので申し訳ありません。近々に出せるように準備をしています。</li> <li>・得られたことと今後の課題ですけれども、まず上流部では、初めて川遊びをやるかどうかというのを試してみたというところですね。下流部のような整備はされてないので、ちょっと公園からアプローチが長いという課題があって、それが参加者にとって負担なのかな、どうなのかというのをやってみました。</li> <li>・結果的には、このぐらいの距離だったら歩けるよということで、ご参加いただいた3か家族ともにおっしゃっていただけて、よかったなと思っています。</li> <li>・満足度も非常に高かったです。</li> <li>・あと、すぐ近所の出庭というところご出身のお母さんが子どもを連れて参加してくださったんですけども、子どもの頃からすぐ近所に住んでいたのに、野洲川に入ったことはなかったと。今回が初めてでよかったというようなことをおっしゃっていただいて、やっぱりすぐ近所に住んでいても、今まで野洲川に入ることがやっぱりできてなかったんだということが分かりました。</li> </ul>

- ・中流部に関しては、野洲小が入ったのもあって遅れている部分もあるんですけども、野洲小のほうでは、ちょっと今年やり方を変えて、野村レンジャーにもご協力いただいて、授業の実施方法を変更して、かつM I Z B Eステーションの整備計画のほうを情報として子どもたちにも3クラス、大体90人ぐらいの子どもたちと一緒に過ごしたんですけども、その子どもたちにM I Z B Eステーションの計画のことをお伝えするとともに、主に下流部と一緒に活動させてもらっている住民グループの活動の様子を動画で紹介させてもらいました。
- ・そしたら、やっぱり動画を見て、そういうことをやってみたいという反応が意見としても出てきていて、とてもよかったなというふうに思っています。4年生の子どもたちと一緒に授業をしたんですけども、完成するのが中学校2年生ぐらいのときだよという話をして、自転車でぜひ遊びに来てねという話をさせていただきました。
- ・下流部のほうなんですけれども、こちらは長年取り組ませていただいている部分なんですけれども、1つ新しいところは、さっき松岡さんがご紹介いただいたように、昨年度の意見交換会で出ていた、出張所長さんがおっしゃっていた貴重植物の保全に住民さんに協力してほしいという声の一つに応えられたのは、とてもよかったなというのと。
- ・あと、終了後なんですけれども、たまたま知り合いがSNSで「野洲川で誰かがカワラハハコを移殖してくれている。すごい。うれしい」みたいなSNS投稿をされていて、すごくよく知っている友達なんですけれども、その彼女がカワラハハコのことを大事にしているということを、僕は残念ながら知らなかったので声がかけれなかったんですけども、でもそういうふうに今回住民参加して、出張所と貴重植物の移殖をしたことにすごく感動してくださった住民の方がいらっしゃったというのも、出張所のほうにもお礼に行かれたというふうに後で聞きましたので、そういうふうな住民のうれしい声も事後ですけども、聞いてよかったなというふうに思っています。
- ・あと、下流部のほうは、実は中州学区さんが野洲川で行事をするという計画が前年度は立っていたんですけども、ちょっと今年度、役員交代なんかもあったりして、キャンセルを残念ながらさせていただきました。それはちょっと残念なことだなと思っています。
- ・一方で、住民グループさんが毎年取り組まれている川遊びオープンデーというのには、9月に100人の方が野洲川に遊びに来てくださるということが実現して、今までになかった人数なので、すごくうれしい光景だなと思っています。
- ・あと、多分、今日、傍聴されている方が、今後、野洲川で清掃活動をされたいということは前の委員会でもおっしゃっていたと思うんですけど

		<p>も、この後ですけれども、また連絡を取らせていただいて、僕としても何かお手伝いできることがあればさせていただきたいなというふうに思っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・以上になります。</li> </ul>
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございました。</li> <li>・では、中谷委員長、質疑応答で。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・では、今の報告を聞いていただいて、委員の皆様から何か感想・ご意見・質問等ありましたらお伺いいたします。いかがでしょうか。</li> </ul>
	北井	<ul style="list-style-type: none"> <li>・途中の活動報告、ありがとうございました。</li> <li>・いろんな活動を幅広く展開されていて、年度当初からすごいことになってきたなと思っていました。参考に教えていただきたいんですが、活動報告書に写真もいっぱいつけてもらっているんですけども、この大人数の、川遊びオープンデイの人数が多くなったときというのは、安全管理のスタッフの配置とかは、どういう形でされていたのかなと思ひまして、お伺いできたらと思ひました。</li> </ul>
	R根木山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。</li> <li>・川遊びのほうは住民グループさんのほうで、民間の助成金を取得されてまして、その助成金を使って川遊びのお手伝いを、今年度は2回とも5人の方に参加いただきました。</li> <li>・住民グループのOGの方であったりとか、個人的につながりのある、自然体験活動が好きな高校生とかで、2年前かな、河川レンジャー支援室のほうで、水辺の安全管理講座というのをさせていただいて、そういうのにも参加いただいている方にお手伝いに来てもらったりして、万全、住民グループがすることなので、万全と言い切れるかどうかはあれですけども、傷害保険をかけた上で、ライフジャケットも必ず着用していただいて、5人の方に見守りを共にしていただきながら、あと住民グループのいつものメンバーの方にも、今日はいつものメンバー以外にもたくさんの初めての方がいるので、ちょっとほかの見守りもお願いしますねということはお伝えした上でさせていただいています。</li> </ul>
	北井	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタッフの方というか、大人の方中心にいろいろ配慮されたという感じがすね。ありがとうございます。</li> <li>・範囲も広くなるし、初めてさんも多いと、ちょっとときどきする部分もあったかなと思ひます。いろいろ考慮されているのが分かりました。</li> </ul>
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほかにいかがでしょうか。</li> </ul>
	若公	<ul style="list-style-type: none"> <li>・琵琶湖河川若公です。いつもありがとうございます。</li> <li>・中間報告をいただいて、ご助言をしたりというのが本来ある形だと思うんですけども、根木山さんがこれだけ上・中・下流にわたって幅広くやっただいて、当然、その年度当初に計画したものが、先ほど中州のほう</li> </ul>

	<p>でなかなかちょっと人の交代でというのもあったので、それはいたし方ないことだと思いますし、そうやって、さらに言うと、根木山さんのキャパシティの話もあると思うので、柔軟にできる活動を一生懸命、これだけたくさんやっていただいたということに、まずは本当に敬意を表したいと思います。ありがとうございます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特にカワラハハコの移殖とか事務所との連携も、なかなか事務所の人間も発信下手だったりすることもありますので、そうやって根木山さんが発信していただいたSNSでまた一般の住民の方とつながっていただくという、お知り合いの方だとおっしゃっていましたが、そういったところも非常にありがたいなというふうに思っておりますので、引き続きお願いしたいと思いますが。</li> <li>・逆に、我々へのリクエストというか、もうちょっとこういうふうに動いてくれるとさらにいいんだけどとか、それは事務所でも支援室でも結構ですけど、何かそういうものがありましたら、忌憚なくいただければなと思います。特になければいいんですけども、何かもし思いつくものがありましたら、教えていただければなと思います。ありがとうございます。</li> </ul>
R根木山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。今年、少し活動の増減を柔軟にさせていただいたので、どうしても夏場、今年もすごく多かったですけれども、忙しくなったりするので、その辺はすごく活動しやすいルール変更させていただいているので、大変ありがたいなというふうに思っています。</li> <li>・あと、職員の方も交代があるので、毎年度意見交換会をして、ちゃんと顔通しをする機会を支援室のほうでも事務局のほうでもご用意いただいているので、そういう意味で連携も取りやすい形になっているんじゃないかなというふうに思います。</li> </ul>
若公	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。よろしく申し上げます。</li> </ul>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほかにいかがでしょうか。</li> <li>・はい、沼田委員、どうぞ。</li> </ul>
沼田	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表ありがとうございます。では、1点だけ。下流では既に川遊びを100名ぐらいでやられ、上流域は今回試行ですが、上流ですと流速が速かったりするかと思うんですけども、下流に比べて注意すべきところとか、何かお気づきのところがあれば教えていただきたい。</li> </ul>
R根木山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。先ほどもあれしたんですけども、下流は水辺整備が川まちづくりでされているので、駐車場から水辺までのアプローチがそんなに長くないというのがいいところだと思うんですけども、栗東市の河川公園のところは、運動場としては整備されているんですけども、水辺まで下りていくということは、特に想定された整備がされていないので、その辺でアプローチがすごく長いというのがやっぱり課題で。最近、</li> </ul>

	夏がすごく暑いので、熱中症対策も相当気を使わないといけないので、今の状況で100人とかはちょっと栗東市の場所ではいきなりはリスクが大きいかなという印象は持っています。ただ、少人数、そんなに多くない人数での川遊びはすごく満足度が高くできるなということは、今回の試行で分かったという報告でした。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございました。</li> <li>・私から1点だけ。先ほど、若公委員から何でも言ってる的な話がありましたので、非常に心強く思いますし。</li> </ul>
若公	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いや、できるか分かりませんが。</li> </ul>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やっぱりそういう情報交換していくというのが大事だと思うし。事務所さんでも瀬と淵の創造とかをやっておられるし、多分、カワラハハコが好きな場所がそういうことで生み出されていくのかということもあるので、うまく野洲川はこういう環境にあるよと。それこそ根木山さんの活動も併せて、じっくりと進めていってもらいたいなという感じがして聞いておりますが。ありがとうございます。</li> </ul>
R根木山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。</li> </ul>
若公	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補足ですけれども、野洲川は来年度も少し河川の中を、いろいろとほかの工事の関係で掘削をしたりする箇所が何か所かありますので、引き続きそういうカワラハハコの保全みたいな機会はあるかもしれませんので、またちょっと情報提供させていただきますというのが1点と。</li> <li>・あと、先週ですかね、リバーフロント研究所という全国的な、河川の割と環境のことを考えるシンクタンクみたいなところがあって、昔、滋賀県立大学の瀧先生なんかも出向されていたところなんですけれども。そこの方に現地に来ていただいて研修会をさせていただくという機会がありまして、結構その方が見ると、カワラハハコが結構、その下流ぐらいで、まあまあ広めに群生しているとかということであって、あんまり近畿の川では見ないぐらいすばらしいですよなんていうお話もいただいて。レンジャーの方にも声をかければよかったのに、今さらすいません。申し訳ないんですけれども。</li> <li>・そんな話もありますので、引き続きまた連携癖というか、そういうことがあるときに、我々としても共有癖をつけたいなど。どうしてもいろんな担当が分かれていて、なかなかというのもあるんですけれども、そこはすいません、私のほうで横断的に見ていくはずのポジションですので、その辺意識をするようにというのを自戒を込めて発言をいたしました。</li> </ul>
R根木山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。</li> </ul>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。</li> <li>・では、次に。</li> </ul>
△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そしたら、資料の6ページ、水上レンジャーのほうの活動でございます。</li> </ul>

		<p>お願いします。</p>
△松岡	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ それでは、松岡から前段、説明をさせていただきます。</li> <li>・ 水上レンジャーも大きく3つの柱で今年度計画をされました。1つが下流域、野洲市域で継続的に企業連携、住民連携をされて取り組まれている河川の清掃ですね、これを2回。そして、2つ目が今回、特に力を入れていこうとされているのが、野洲川中流域、上流域での活動に向けた具体的な取組というところでございます。3つ目が現在はもう基本的に手を離されていますけれども、野洲川河口部ヨシ帯モニタリング調査ということで、琵琶湖河川事務所さんと立命館守山中学校さんが取り組まれる際の、必要な橋渡し部分をご依頼されて、応えておられるというところですよ。</li> <li>・ まず1番目、守山市域においては、予定どおり6月期、そして今回10月期に地元、そして企業、そして行政、守山市さん、琵琶湖河川事務所さん、4者と調整をされて実施をされております。</li> <li>・ そして、2つ目、特に今回、中流域、上流域というところで模索をされている中で、こちらのほうではまず一つ、中流域というところですけども、昨年度の意見交換会で野洲市域の皆さんと野洲市のMIZBEステーションの構想について情報提供を受けられて、今年度改めてまた野洲市のご担当へそういったところと、今後の河川レンジャー活動の展開の可能性について、ヒアリング等をされております。そうした結果、今現在、早急にレンジャーの取組に具現化していくというよりも、少し野洲市さんの動きを見据えながら調整をしていこうとされておるところですよ。</li> <li>・ 上流域の栗東市域におかれては、今回、取組を実行されました。栗東市さん、そして今回、地元の企業さんのほうに飛び込み訪問等々を頑張ってされて、今回2社のご協力をいただいて、栗東市さんと事務所さんで取組をされたというところですよ。</li> <li>・ 3番目については、こちらも今年度先ほどの私の説明のとおり、事務所さん等々にご依頼を受けて、中学校さんとの間に立って、子どもたちとの日程調整や事前の学習の講師等をされて実行されております。</li> <li>・ すいません、手短ですが、以上です。</li> </ul>	
△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ では、水上レンジャーのほう、自ら活動を通して得られた成果等をお願いいたします。</li> </ul>	
R水上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8ページの一番下のところで、まず特に今回、先ほど事実というんですかね、活動したことは支援室から説明していただきましたが、特に私のほうで今回の中間報告的にお話しさせていただきたいのは、野洲川上流の関係です。</li> <li>・ まず、ここでちょっと課題的に悩んだところがありまして、そこをちょっと報告させていただきますと、ここに書いていますように、上流河川清掃の実施日と書いていますけれども、これは何かといいますと、実は最初、</li> </ul>	

	<p>下流でやっていたように、地元の住民の方とか家族の方を企業と一緒にできると一番いいかなと思って、実はその<u>ジョウショ</u>をしました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•ところが、まず地元企業から行こうということで企業に行ったんですけども、何社か当たっても、なかなか、例えばパナホームという大きい会社があったんですけども、大きいところに当たってみようということで当たった結果、なかなかちょっと調整が難しかったと。幾つか当たったうちに、地元企業の調整の結果、先ほど報告がありましたように、中国塗料さんと、それからヒラカワさんという地元企業の方が、ここに書いていますように、社会貢献の一環としてということで、非常に協力的に参加していただきました。</li> <li>•そうすると、課題になるのが、平日でないと駄目だと。要するに、例えば今回実施したのは、朝の1時間か1時間半ぐらいだと行けるということで、1時間朝に来ていただいて、要するに仕事のところでやっていただいたという形でやったものですから、平日でないと実施できなかつた。そうすると、平日だとやはり住民の方々、家族とかですね、働いている方々が一緒に家族で来てた人ができなくなると。苦渋の選択をしまして、結果的には試行的に地元企業を中心に声かけをさせていただいて、そういう活動をできたということで、なりました。</li> <li>•ただ、ちょっと今回ご意見をいただきたいのは、こういう形でやっていくんですけども、まず下流はなぜ企業とできて、地元の住民ができたかという、企業の社長の方がどっちか言うと、社会貢献はもちろんですけども、会社の福利厚生として家族でみんなと一緒にやったほうがいいんじゃないかということで、そういうところの企業が見つかったと。</li> <li>•ところが、今回は、そういう形で経験から持っていったんですけども、なかなか難しかったということで、感じたのは、企業とどう、いかに参加させていただいて、その中でなおかつ住民の参加をどうしたらいいというので、もし委員の方で経験があつて、そういうのがあればちょっと助言いただきたいなというので、特に今回はこのところを説明させていただきました。よろしくお願いします。</li> </ul>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>•では、今、水上さんから報告をいただきましたが、今、どっちかという、大変重い情報が発せられたかと思うんですが、委員の皆様、いかがでしょうか。</li> <li>•考えてもらっているというか、その時間で、私からちょっと。</li> <li>•要は、実際飛び込んでいってもらおうというのは、非常に大きなきっかけやったのかなと思ひまして。何かそういうのを仕掛けていかないと、なかなか自分から手を挙げてということも難しいです。清掃活動をしましよよという、そういうところで、どれだけ企業さんが意識があるかということがあつて、</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私、前に野洲川の廃川敷の跡で公園になったところでちょっと関わっていたことがあって、植樹をしてたんですね、ずっと。平地で何もなかったところへ木を植えて森にしましょう。それだと、企業さんもやっぱり時代的にそういう森を造ろう、木を増やそう、大きさに言うとカーボンオフセットとかね、何かそういうところに結びつくのであって、それは非常に盛んに、例えば自動車会社さんも決まった日に大変多くの人に来てもらったというようなことがあるんですけれども。</li> <li>・ただ、今度はその木がうんと育っちゃって、今度は減らしにかかっているような状況があって、込み合ってしまうとうまくいかないんです。森になっていけないので。そういうふうにシフトしてきているんですけど。時代、時代に合ったそういう仕掛け、清掃活動も非常に大事なところではあるんですけど、何かその辺もうちょっとうまく引っかけていくようなインセンティブというか、そこ、なかなか難しいんですけどね。言うのは簡単ですけど、難しいんですけれども、どうやろうかというのがあって。</li> <li>・ちょっと振っちゃってあれですけど、沼田さんのところは河川愛護活動の元締めですし、例えば住民さんは多分県下で10万人とかそれぐらい関わってくるんやけど、企業さんに対しての何かそういうようなところはなかったですかね。</li> </ul>
沼田	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河川愛護活動を、企業の方に参加を呼びかけ同じ日で難しくエリア分けをして、企業さんが平日に、自治会が休日にという形で、別々の日に取り組んだ事例はあります。</li> <li>・なかなか、先ほど言われたように、企業さんに休みに社員に出てきていただくというのはかなりハードルが高いので、エリア分けをしながら、除草をしているところはあります。</li> <li>・休日に出てきていただくというのに苦労しているところです。</li> </ul>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。</li> <li>・中国塗料さんは野洲川の水は使ってないんですかね。塗料屋さんやから、使ってないか。そういう面では旭化成とかは使っているのと違うかな。何かそういう方面から、あまりこう、使っているからどうやというアプローチは駄目だと思うけど、何かうまくこう関連しますよみたいなところが見つかると思えやすいかもしれないという気がして、聞いてたんですけれども。</li> </ul>
若公	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私も、この中国塗料さんとかとやられた、いつやったかな、11月21日か、参加をさせていただいたんですけれども、そのときに水上さんとお話しさせていただいたら、この前段で、もうちょっと某大手電機メーカーとかに、残念ながらお断りされたみたいな話もちょっとちらっとお伺いしたものですから、何でもかんでもということではないんですけれども、お探しになられたときに、どういうふうな感じ。例えば、それが事務所の人間と一</li> </ul>

		<p>緒に行ったら、もうちょっと対応が違ったのかなとか、そういうもし何か改善といったらあれですけど、何かもし思うところがあればちょっとお伺いできればと思います。</p>
R 水上		<ul style="list-style-type: none"> <li>・実は、中国塗料に行ったときに、事務所の担当の、具体的に言うと、粕渕専門職のほうに「こんなだった」と言ったら、粕渕専門職はあのような状況をもたらしたときに、一回、中国塗料の人に「近くにないか」と、逆に「企業がないか」と、それを聞いた結果、ヒラカワさんがうまくいったんですわ。</li> <li>・だから、私の場合は特に、ワークショップとかやるのに高校生の方に来ていただくといいんですけどもね。私は戦略と言うとおかしい言い方ですけども、まず相手に信用してもらわないかんから、実は私は国土交通省に勤めていましたというところを出すと安心して。だから、一般の人が行くんやったらやっぱり、ぜひ国交省方と一緒に行かないと、河川レンジャーって何者、失礼な言い方ですけど、まだどうしても認識がないから、何者だというところが言われますので。私はそういういわゆるテクニックとしては「もともと国交省にいました」と言う信用していただいて、うんという形に。本当は、国交省の人と一緒にいくといいかもわかりませんね。</li> <li>・また、国交省の人も、さっき言ったように、専門職に助言いただいたような形で、そういう助言をいただきたい。</li> <li>・もう一つだけお願いしたいのは、今もいろんな企業とかどうして当たっていくというのはいろいろとご意見をいただいていますけれども、その意見もいいんですけども、この後でもいいですけども、そういう経験者を集めたような勉強会を是非していただけないかと。支援室なり、支援室にお願いするところなんですけれどもね。そうすることによって、特に経験のある方にそういう勉強をしていただくと、それがまた新たなやつになるかと。ぜひ経験のある方でないと、どう言うたらいいんですか。本に書いてあるようなことをやってももらってもあれなんですけれども、それはちょっと難しいんですけども、それをぜひお願いしたいとは思っております。</li> </ul>
	若公	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経験というのは、企業連携の経験ということですか。</li> </ul>
	R 水上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そうです。</li> <li>・もう一つ、私、課題がありまして、住民主体に持っていくというところは、今回ちょっと説明していませんけれども、琵琶湖河川レンジャーの場合は、最終的には住民主体に持っていく。そのところがなかなかできてないものですから、だからそういうできていないところの課題を、経験のある人を講師に呼んでいただいて勉強もしていただくというのが一番いいかなと思っていますので、一回、ここでお願いしたいと思います。なかなか難しいですけどもね。お願いしたいと思います。</li> </ul>

若公	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。それを受けて。</li> <li>・一方で、結構、野洲川のごみ拾いも公園のところは落ちてなくて、大分川に入って藪をこいでいくといっぱいあるみたいなところで。何ていうんでしょうね。やみくもに広げていって、大企業で100人ぐらいわあっと来たときに、何かというのもあるので、やみくもに必ずしも広げることがいいことだとまでは思っていないので、そのあたりをもう少し、もしいろいろなところに声をかけていくということであれば少し考えてないといけないなとも思っていますので、ちょっとすいません、引き続きいろいろとご相談をさせてくださいというのが1点です。</li> <li>・もう一点、ちょっとこれは必ずしも水上さんということではないんですけども、栗東市長さんとお話をしているときに、せっかく河川公園で青少年少女が野球だのサッカーだのいっぴいやられているので、ユーザーとして彼らにお手伝いをしてもらうみたいな機会を考えたらどうだというのをちょっとご提案をいただいたので、そこは少し栗東市さんとも、うちの事務所のほうで、ご相談をしながら、市長じきじきに言われたというのがありますので、何かできればなということは考えていますが。川の中の高水敷がどのぐらい、先ほど根木山さんの話もありましたけれども、どのぐらい安全なのかというところも。</li> <li>・高学年ぐらいだったら、結構宝探しみたいにごみ拾いしてくれるんじゃないかなと、この間、私は自分で活動してみて感覚を受けているので、そういう展開も少し考えられればなという。</li> <li>・そういうことを通じて、川の中は結構遊べるやんというふうに思っていたくみたいなことも効果として、先ほどのお話の中で、根木山さんのお話の中で、一回も入ったことなかったみたいな方を川の中にいざなう機会にもなるかなと思いましたので、そういうことも、やるとしたら夏場だと思いますけれども、考えたいなと思っております。以上です</li> </ul>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。ほかにいかがですか。</li> </ul>
R水上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すいません、ちょっとよろしいですか。今、若公所長が言われたように、私もそのところはぜひ河川レンジャーとしてはやっていきたいんですけども、ただ、さっきも言われたように、行政の協力がないと、なかなか行政間を結ぶというのは一人では大変ですので、ぜひ行政に協力していただいて、河川レンジャーとしてもやっていきたいです。よろしく願いいたします。</li> </ul>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。平山さんはまだなんかな。</li> </ul>
△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平山さんも入っておられますが。</li> </ul>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どうでしょう。今、平山さん、入れるか、話にこう。</li> </ul>
平山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すいません、聞こえますか。</li> </ul>
△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい、聞こえます。</li> </ul>

中谷	・聞こえます。
平山	・すみません、環境が悪くて、ちょっと聞こえてないので、チャットで記述させていただきます。
若公	・よろしくお願いします。
中谷	・では。
△中西	・では、続きまして、野村レンジャーのほうでございます。10ページをご覧ください。
△松岡	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そしたら、野村レンジャーの前段部分、説明させていただきます。</li> <li>・野村レンジャーは今年度、4つの項目で計画を組み立てられました。1つは、この瀬田川筋の様々な情報を入手すべく、地域行事などに参加して、ヒアリングを実施されること。そして、2つ目が昨年度に続いて、柱であります、瀬田川たんけん隊の取組。そして、3つ目がたんけん隊とは別枠の瀬田川への関わりということで、地域住民とのワークショップ。そして、瀬田川たんけん隊を進めていかれる中で、小学校の教科書、大津市採択の中から、川や水辺に関する単元がないかというのを事前に調査されることということで、計画を立てられて実行されています。</li> <li>・まず、ヒアリングに関しては、適宜タイミングを見て、お示しの取組をなされているという報告を、月間報告等々からいただいております。そして、ちょっと飛びますけれども、たんけん隊に向けた小学校の教科書の調査というのも実施されていまして、結果として、社会科では4年生、5年生、理科では5年生、6年生の教材に川や水辺に関わる内容が多いというような調査結果を出されて、結果を受けてということでコメントもいただいているところです。</li> <li>・それに関連した瀬田川たんけん隊ですけれども、前回委員会で、なかなか募集状況がよろしくないところだったのですが、その後、最終的には抽選をするぐらいの応募を得ることができまして、最終、予定どおり親子10組24名というメンバーで実施をされております。</li> <li>・7月に第1回川の観察、そして第2回は9月に漁業を知ろうということ。そして、先月30日に瀬田川の石を観察しようということで取り組まれておりまして、この30日の取組に関しては、定員以外にも受け入れても、安全管理等も含めて実施が可能ということで、別途、落選された応募者にも個別に案内されて取り組まれております。</li> <li>・そして、別角度から瀬田川への関わりの取組ということで、今年度は2回、現在まで実施されておりました、一つは、4月に実施された町歩きということで、歴史・史跡的な側面から取組をされ、すみません5月ですね、5月に取組をされておりました、夏、8月後半には今度は川の中の生き物について、県の水産試験場の方のご支援等々もいただきながら取組をされたというところでございます。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すみません、手短ですけれども、以上です。</li> </ul>
△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・では、野村レンジャー、すみません、12ページの後段の部分、お願いします。</li> </ul>
R野村	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞こえますでしょうか。</li> </ul>
△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい、大丈夫です。</li> </ul>
R野村	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野村です。よろしくお願ひします。ありがとうございます。</li> <li>・先ほど言われたように、瀬田川たんけん隊の募集に関しては、本当に事務所さんや支援室や、いっぱいご支援いただきましてありがとうございました。大体2倍ぐらいの応募者がありまして。この間の大石と、それから水鳥の観察会、次やる、1月にやるものにつきましては、定員が要らないと私は思っていますので、安全管理だけきちんとして、去年のたんけん隊の参加者や、それから落選された方などにも、いかがですかというふうにご案内をしようとしています。</li> <li>・ワークショップも今年2回やらせていただいたんですけども、大変新たな見方ができるといいますか、自分もそうですし、まちの新たな魅力に気づけたとか、普段こんなことを思わなかったけれども、こういうことに気づけたよい機会だったとか、親子で自然体験学習ができてよかったとか、そういうすごく前向きな感想をいただいております。</li> <li>・そして、ワークショップを通じて、私のほうがまた幅広く川に関わる人と出会うことができ、またいろんな考えを聞くことができるので、それがまたたんけん隊やいろんな活動をするところに生かされていくということを実感として感じられています。</li> <li>・また、この間、根木山さんの野洲小学校への授業に参加させていただいたんですけども、そのときにも授業の流れというか、小学校の学習課程を知っていることで、ここでこういうことをするとこことつながるなみたいな感じで、子どもたちにお話が自分なりにできたと思うので、それは調べてよかったなと思っています。</li> <li>・図書館で大津市の教科書を全学年全教科借りてきましたので、そういう今の子どもたちが何を大事に学ぶべきだという社会的な要請があって、学習しているのかなということも確かめることができたので、私は意味があったなと思っています。</li> <li>・ちょっとご相談というか、今の私の悩みというか、そういうことなんですけれども、たんけん隊というか、このレンジャー活動を始めるときに、私はすごく大きな目標を立てていまして、それは瀬田川に主体的に関わる、自分ごととするというような、今でもそう思っているんですけども、それを一足飛びにするのはとても難しいことだったなと思っています。</li> <li>・今の私の感覚で言うと、たんけん隊っていうのは、瀬田川や川、琵琶湖に関心がある人をできるだけ増やすといえますか、その裾野が広がるという</li> </ul>

か、そういうようなところで1年間を過ごしています。委員の方から、この間も、前回もおっしゃられたと思うんですけども、どなたかが。レンジャーとしての深まりというか、もっと、だから1年目よりも2年目、2年目よりも3年目というふうにできることが、そういう意欲を見るんだというふうなことを委員の方からおっしゃられたので、そこまでは私はとても1年間というか、この2年間でできてないな、どうしたらいいのかな。でも、子どもたちや親子さんは、本当に実感として、瀬田川をもっと知りたいと思っているし、大事にしたいと思っているし、そういうところでもいいのかな、私がレンジャー活動をしていく意味というのほどこにあるのかなということが、私はこの頃悩んでいるところです。

- こういう役目じゃなくても、もっと関わり方があるのかな、あつ、別に辞めたいというわけじゃないんですけど。ただ、難しいことを、何というか、大風呂敷を最初に広げてしまったなという、そういう反省は常にあります。
- それに関わるかどうかは分からないんですけども、今、正直なところ、漁業体験ですけど、かなり支出が多くて、半分以上、乗船代に行っているという、そういう状況があります。また来年からうんと上がりますし、でも、誰かがしないと、多分、本当に瀬田川の漁業があんまり地域の方に知られていかないというか、できれば何か私が役に立てることをしたいと思っています。
- なので、例えばこの公開されている乗船代などについて、参加者から実費丸々なのか、一部なのか、どうか分かりませんが、徴収できるような仕組みに変えていただけると大変ありがたいなと思っています。
- 参加者さんからも、本当にこれ無料でいいんですか、これどこからお金が出ているんですかという声は、去年も聞きましたし、今年も聞いているので、そこで「私の活動費です」みたいな、「レンジャー活動費が出ています」というふうにはしゃべっているんですけども。多分、レンジャーという活動についても理解をあまりされていないので、実際のところは、どうなんかな、無料ならいいのかなということだと思うんですけども、何かこう、主体的に参加してもらうということについては、やっぱり実費を出していただいたほうがいいのかなという思いがあります。
- もう一つですけども、野洲川さんはいっぱいいろんな取組、取組じゃないな、何というか、変わっていくのがあるんですけど、瀬田川は私の勉強不足で、何か変わっていくとかいうようなことがありましたら、教えていただきたいんです。
- 国の直轄機関が、瀬田川の機関がある程度本当に限られてきていて、両面、整備されているので、何というかな、信楽川はちょっと違うんやとか、支流になっている川は、そこは活動範囲ではないんだとか、そういうことも

		聞きますし、どういうふうこれから活動を広げていったらいいかなというの悩みのです。すいません、いろいろ言っちゃってごめんなさい。よろしくお願いします。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野村さん、ありがとうございました。せっかくの機会ですからお話ししていただいてよかったと思いますし、後の方法の部分はまた制度の中でもどうしたらいいんだろうかということは議論していく必要があるのかなと思っていますし。</li> <li>・初めのほう、取り組んでもらっていて、ステップアップというなお話もあったんですけども、例えば今、活動してもらっている周りに大変たくさんの方が暮らしていて、そういう活動に関わる人って、そういう人口から比べるとごく少ないんですよ。そやから何か、こういうこともあるよということを感じて広めてもらえればいいかなと思う。</li> <li>・それがまた学校の勉強みたいに、1年生これで勉強したから2年生はこれではなくちゃならんというところまでは、あんまりそう強く意識しなくてもいいんじゃないかという気もしますし、ただパート・パートで、例えば瀬田川の川底のほう、鹿跳ですかね、見に行ったりとかして、それをきっかけにまたあの辺の地質とか、ここが水の流れがこうなっていますよとか、何かうまくそういうふうに広げられる部分があったら、それは取り組んでいってもらったらいいなというふうにも思って聞いていたんです。</li> <li>・委員の皆様はいかがでしょう。どうぞご発言いただければ。北井委員どうぞ。</li> </ul>
	北井	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろんな活動をしていただいているので、聞きたいなと思ったのは、いろんなお悩みについても、今、まずは伺ったことと踏まえて、活動、いろいろなので大変じゃなかったですか、というのは、率直に聞いておきたいなと思いました。</li> <li>・目標を大きく最初に掲げてらっしゃってというところについては、何か段階的に進んでいたり、少しずつ深まるものもあると思うので、そこを目指してということで、少しずつ次年度とかの活動で組み上がっていくようなイメージがあればいいのではないかなと思いました。いろんな人を集める活動をされると、毎度のご調整とかもありますので、大変な部分があるのではと思います、どうでしょうか。</li> </ul>
	R野村	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。ワークショップについては人を毎回集めるということなんですけれど、そんなにたくさんの親子を集めるつもりはなかったので、10人ですので、私のキャパも考えて。それが例えば4人とか5人とかであっても、そしたらその分、その人たちに関わる密度というのは深まるというか、こういうこともやらせてみたいという幅がある計画を立てているので、それは。</li> </ul>
	北井	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画と運営自体もあんまり、大変、大丈夫ですか。</li> </ul>

R野村	・大変じゃないです。大丈夫です。
北井	・よかったです、そこは。
R野村	・でも、本当に支援室の皆さんがサポートしてくださって、この書き方やったら伝わりにくいから、こう直したらとか、ここで大変かもしれないから、もうちょっと何か期間をこんなふうにしたらとかいうことを、支援室の中で私は相談をかけていると的確に教えていただいているので、それはありがたいです。
中谷	・よろしいですか。
北井	・はい。
中谷	・ほかにいかがでしょうか。若公委員、どうぞ。
若公	<p>・まず、ご相談事項のことは、<del>ちょっとすいません、正直そんなに漁業さんにお金をお支払いしているという認識が私はなかった</del>ので、それは大変お困りはよく理解できます。<del>そのときに、ちょっとまだこのことだけでも少しあんまりオープン</del>の場で議論するの<del>もちょっとあれなので、また支援室とかうちの事務方とまたちょっとご相談を来年度に向けてしていただいたらと思うんですけど。</del></p> <p>・<del>ちょっとやっぱりあれですね、漁協さんと少しお話を、まだ値上がりするかもしれないということですけども、そもそも漁業の大切さを伝えるためですよ</del>というところあたりもありますので、少しその辺、もうちょっとご理解いただけるように、野村さんだけだと、何か手ごわい漁協さんに<del>ちょっとあれかもしれないので、少し来年度の計画を立てる段階で少し考えたほうがいいかな</del>と思いました。</p> <p>・その中でこういう実費を調整するという選択肢も私的にはあってもいいなと思いますけど、仕組み的にそれでそれがすぐに「はい、大丈夫」とまで言えるか分かりませんので、引き続き、ちょっとすいません、ご相談をさせていただきますというのが1点です。</p> <p>・それから、一番最初のほうにご発言があった、やっぱり河川レンジャーの理念としては、イベント屋さんではなくて、その市民と行政の間をつないでいくというのがもちろん理想形なんですけど、結構、野村さんの活動については、初年度から割とフルスロットルでフルメニューでスタートをしていて、ここからさらに成長しろと言われても、なかなか正直しんどいんじゃないかとも思いますので、少し継続していく中で、必ずしも去年より今年のほうがこういうところが上積みがないといけないところまで、少なくともこちらの立場としてぎりぎりとお求めするつもりは毛頭ありませんので。私も去年より今年のほうが仕事をちゃんとしろと言われてたらなかなかつらいなと正直思うので、そこはあんまり重荷にならずに活動していく中で、少しこういうこともできるかなと思ったことをやっただくというぐらいのスタンスで十分よろしいのではないかなというふう</p>

		に私としては思いますので、そういうふうにお話を聞いて感じました。以上です。
R野村		・ありがとうございます。
中谷		・ありがとうございます。 ・沼田委員、どうですか。
沼田		・報告ありがとうございます。先ほど自分ごとにするというお話ありましたがけれども、なかなかすぐに効果は、出ないと思います。今、やられている取組、例えば外来魚釣りですと、釣りだけでなく解剖にも取り組まれている。 ・子どもたちには、今すぐ効果が出なくても、これは必ず将来、こういった方が増える取組だと思しますので、そんなに焦らずに継続して取り組めばいいと私は思いました。以上です。
中谷		・ありがとうございます。 ・野村さん、今、いろいろ委員から発言ありましたが、参考にしていただいて、また議論するところは支援室を通じて議論していけばと思いますので。 ・はい、どうぞ。
若公		・もう一点だけ。あと、瀬田川の整備についてなんですけれども、野洲川と比べると、比較的治水という意味ではある程度、メニューはそんなに多くなく、かつどうしても野洲川と違って、あんまり琵琶湖からの出口の水路的な位置づけもあって、あんまり環境云々という事業も必ずしもないので、あんまりメニューは多くないんですけど、あえて言うと、もう少し琵琶湖からたくさん水が流れるようにしたいというような治水の観点で、今、ご活動いただいている鹿跳溪谷の辺りの一部を少し川幅を広げるといような工事を今後やっていくといような計画は、ちょっとまだ具体的なスケジュールまで引けてませんが、そういうところはございますといのを補足でご説明をさせていただきます。以上です。
R野村		・ありがとうございます。
中谷		・ありがとうございます。
△中西		・平山委員からコメントが入っております。
中谷		・お願いします。
△中西		・平山委員から「事務局に質問なのですが」ということなんですけど、「レンジャーが開催するイベントでは参加費を徴収してはいけないということが決まっているんでしょうか」ということで、事務局に質問なんですけれども。 ・活動で参加費を徴収してはいけないというものはどこにも書いてありません。ただ、もう一方で、「謝金の中には」ということで、「活動に要する経費は謝金の中に含まれる」という一文は活動要領にありまして、その一文

		があるものですから、いろんなことにかかる交通費ですとか、そういうことはもう含まれているんですという言い方になってしまっているんですけども、ちょっとこういう野村さんのケースがありますので。
	中谷	・ケースがね。活動に要するって、レンジャーさん自身がどこかへ出かけていくとか、その想定だと思うので。そこはまた今後。
	△中西	・またちょっと事務局の中で相談、対応できるように考えたいと思います。
	中谷	・もちろんまた、制度としていくのであればはっきりさせていかんと思いますので、よろしくお願いします。 ・では、レンジャーの皆さん、ありがとうございました。 ・次に移らせてもらってよろしいですか。

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, O印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
(4) 制度運営 委員会委員の 追加について	中谷	・では、時間もかかりすぎだったんですが、4番目の委員の追加について。
	△中西	・お手元、ペラ、資料1枚だけなんですけれども、資料-3というのがございます。
	△粕渕	・事務局粕渕から報告させていただきます。 ・河川レンジャー制度運営委員会の委員の追加ということで、氏名、佐々木和之様、所属がびわこ学院大学教育福祉学部非常勤講師、佐々木さんを次回の第74回の河川レンジャー制度運営委員会に、学識経験者の委員として1名、参加していただくこととしました。以上、報告です。
	中谷	・ありがとうございます。 ・では、そのように取り計らいいただいて。お願いします。

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, O印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
3. 審議事項	中谷	・では、審議事項に移らせていただきます。
(1) 河川レンジャーの活動継続に向けた環境整備について	△中西	・引き続きまして、資料-4のほうをご覧ください。審議事項ということで、河川レンジャー活動継続に向けた環境整備について。こちらについては、毎年いろいろ少しずつ改善をしていっているつもりなんですけれども、もう一つ改善をしたい点がありましてということで、真ん中の図をご覧ください。 ・左側が現状の運営のイメージで、右側が今回提案したい内容なんですけど、レンジャーさん、2年が1期ということで、1期2年程度活動されるわけです。年度の終わりに、もし継続したいのであれば、審査を受けて、次の年度からまた活動されるわけなんですけれども、活動が、任命を受けられて活動計画が承認されるまで、ちょっと空白期があるために、活動が途切れて

	<p>しまうんですね。例えば、応募する活動をされたいときですとか、人々を呼びたいとか、何か公募して清掃活動をするとかいうのは、承認を受けてないと活動ができないのかなというところがあって、ちょっと空白期ができてしまう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こういったところを改善するために、右側のように、任命審査を受けられるタイミングのときに、次の年の年度計画も併せて説明をさせてもらいたいなど。そうすると、それが活動計画の承認にもつながって、4月、5月の空白期も切れ目なく活動できるのではないかということで、これはレンジャーさんの希望によってなんですけど、やっぱり2年目新たに計画を練りたいんだというような方もいらっしゃるかもしれません。野洲川から瀬田川に今度は変えたいんだという、そういうときはちょっと計画を練る間にはいろんな調査をしたりとかいうことで、活動計画というのはもう少し先の委員会のときに提示するという方もいらっしゃるかもしれませんが、現在の活動を継続してやっていきたいという場合は、審査のときに計画も認めていただけないかなというような提案でございます。</li> <li>・同じように、同じ任期の中でも1年目から2年目に移るとき、ここも一度暫定計画というのを2月なり3月なりに出しているわけです。5月なり6月なりの1回目で計画を承認という流れになっているんですけれども、ここも2月・3月の委員会のときに、暫定ではなく計画を承認していただくというタイミングにすれば、そのまま2回も活動計画に対してプレゼンする必要もありませんし、修正が必要であればもう一度出し直してもらおうということなんですけど、暫定とはせずに、暫定を取って、活動計画の案ということで、プレゼン、承認に行けないかなという2年目に向かっても、ちょっとそのあたりを提案させていただきたいという思いがございます。</li> <li>・文章を読んでいたら時間がかかりますので、以上のような説明でお分かりいただけますでしょうか。</li> </ul>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明ありがとうございました。</li> <li>・今もありましたとおり、要は切れ目がないようにうまく進めましょうよという趣旨ですね。ですから、中でも話がありましたように、ちょっと空白期間、そこは計画の承認という手続が要るわけなんですけど、そこはダイレクトと一緒にではないですけど、中間報告のやり方もうまく変えていきましょうよということもあったので、活動しやすいように工夫していくということは非常に大事なことやと思いますし、あったように暫定計画、次、年度が変わって、やっぱりこうしたほうにしましょうよというようなことがあれば、それは弾力的に受け止めていけばいいと思いますので、提案の方向でよろしいかというふうに感じて聞いておったんですが、委員の皆様からご意見、質問等ありましたら、お伺いいたしますが、いかがでしょうか。</li> </ul>
北井	<ul style="list-style-type: none"> <li>・では、私、いいでしょうか。今の現行の運用だと、年度末に報告と暫定計</li> </ul>

	<p>画を一応委員会に諮って、年度明けてからの委員会で本番の計画のものがあって、何となく大分ダブった内容であることもあって、改善できることも多いかなと思うのでよいのではないかと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・また、4月当初から動かせたいとか募集かけられたい、具体的に野村レンジャーの話でもあったかと思しますので、いろいろ改善するかなと思います。</li> <li>・これと併せて、委員会の年間3回と大体決まっているようだったら年間3回の委員会が、何となくどういう内容の委員会になっていくのかというのをちょっと整理しておいたほうが良いかなという気がします。</li> <li>・ただ、年間2回になっちゃうと、本当につかめることも少なくなるかなと思うので、3回程度は最低限必要と思っています。年度当初ぐらいと半ばの中間と報告のときというので、最低限回数あるといいなと思うんですけど。</li> <li>・今までの感じだと、いろんな制度をよくしていく審議に十分時間が取れない部分もあったと思うので、そこに時間を割くための委員会ができてくるのかとか、その何かこうレンジャーさんの任用の審査とか審議の部分のルールと、委員会運営のほうの流れみたいなのと、セットでイメージしておきたいなと思いながら資料を拝見しました。</li> </ul>
中谷	・ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。
若公	・もし今に対して何かあれば。
△中西	・今、北井委員の言われた件に関しましては、年度末に委員会を調整させていただいておりますけど、そのときに委員会としての運営のスケジュールリングの資料というの参考にご提示させていただければなど。
北井	・皆さん、年度末で計画承認かかってしまった場合、次の年度明け委員会設定はどこに来るのかなというのは素朴な疑問なんですけれども。なくなると多分、結構いろいろ把握しづらくことがいろいろ出てくるのではないかなとも思います。
△中西	・恐らく年度から初めて計画を出される方もいらっしゃると思うので、その分、ちょっと早めに委員会は始めるとか、そういうことも併せて考えたいと思います。
若公	・多分、今年だと6月だったかな、年度頭ね。だから、3月か2月に計画承認すればそんなにやらなくてよくて、やっぱり6月とかぐらいでよくて、そのときに、もう改めて計画どおりにやるんだったら、そんなに計画の説明を丁寧にしていただく必要はないので、おっしゃったように少し制度的なところとか、昨年度1年回してみても、今年度こういうことを考えたいみたいなのところに少し時間を取るようなことと、あと中間をもうちょっと早くやることと、多分2点ぐらいが。
北井	・全体に前倒してくるみたいなこと。

	若公	・まあ12月だから、理想は10月だけけど、10月から11月ぐらいには遅くともやらなきゃいけないということを念頭に置いてきた。
	北井	・そうですね。4月から動き出すと、本格的に4月から動けるようになると、その分きっちり、もしかしたら事業も進んでいるかもしれないです。
	若公	・そうすると、やっぱり10月ぐらいが望ましいと。
	北井	・ということですね。
	△中西	・レンジャーさんによっては6月というのはもうほぼほぼ中間の時期かもしれませんので、あるレンジャーさんについては中間の相談ができる時期かと思っております。
	中谷	・平山さんは聞いているのか。
	△中西	・平山さんは電車で移動中なんですけど、「今、ご提案のスケジュールがよいと思います」というご意見をいただいております。
	若公	・ありがとうございます。
	中谷	・今、出たようなその辺も踏まえて、はい。 ・沼田委員、スケジュール的なこと、今、あったんですけど、こういう感じでまずやってみるというようなことでよろしいですかね。
	沼田	・はい、レンジャーさんが活動しやすくなるような提案だと思っております、提案どおりでいいと思います。
	中谷	・ありがとうございます。 ・では、今、出た意見も踏まえて、また整理しつつ進めていきましょう。
	△中西	・ありがとうございます。

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, O印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
4. その他 (1) 傍聴者からのご意見	中谷	・では、審議事項まで終わりましたので、あと傍聴者さん、もしご意見があるようでしたらお伺いしますが、いかがでしょうか。
	△中西	・本日は傍聴に2名の方、お越しいただいております。これまでの審議ですとか、報告とかを聞かれまして、ご発言は。
	若公	・無理にじゃなくて。
	○傍聴者	・今日はありがとうございました。今日、どんな感じなのかなというのを楽しみに来させてもらったんですけども、すごく内容にボリュームがあって、これはすごいなって思いました。もうその一言に限ります。すみません、全然、質問になってなくてすみません。
	若公	・ありがとうございます。
	○傍聴者	・こんにちは。水上さんのことについて、ちょっと意見があるんですけども、企業さんで日本財団、海と日本PROJECTというサイトを見まし

	<p>たが、ダイハツディーゼルの守山事業所が2021年に野洲川ふれあい広場で清掃活動されたみたいなんで、そのとき何か、野洲市と守山市の境目で、ごみが引き取ってもらえなくて、翌年以降は守山市のなぎさ公園で、一昨年からは大阪の淀川に活動場所が変わったんですけど、一度当たってみていただければ。以上です。</p>
若公	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すごいな。</li> </ul>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報をありがとうございます。</li> <li>・傍聴者の方、いきなり振った面もあります。お許してください。ありがとうございます。</li> </ul>
若公	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ちなみに1点だけ、その他で。さっき野村さんのご発言の中で信楽川の話がちょっとあって、私はお答えをしなかったんですけど、基本、琵琶湖河川事務所の活動要領を読んでいたら、1条で、琵琶湖河川事務所が管轄する区域及びその周辺において活動するというふうに書いてあるので、全然信楽川の合流点の付近、大石のあの辺りで、石のところで活動、全然許容範囲というか、全然オーケーだと思っているんですけど。何かかっても、だからといって、全部愛知川でやりますとか言われたら、周辺はとか、何かそういう議論って、すいません、私も浅いもので分からないんですけども、何かあったんですかね、特に。</li> </ul>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あんまりぎりぎりしたことはなかったように思っています。</li> </ul>
若公	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あんまりぎりぎり決めなくてもいいと思っていますけど。</li> </ul>
北井	<ul style="list-style-type: none"> <li>・徐々に厳密になってきたかなと思っています。</li> </ul>
若公	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ああ、そうですか。昔はもっと何か全然違う。</li> </ul>
北井	<ul style="list-style-type: none"> <li>・別の河川の活動もちょっとあったんですけど、その以降から直轄河川がいいなという話が上がってきました。</li> </ul>
若公	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そうなんですね。</li> </ul>
北井	<ul style="list-style-type: none"> <li>・けど、その周辺という表記が残してあるというか、ぎりぎり残って、周辺域で。</li> </ul>
若公	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なるほど。</li> </ul>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そやから、琵琶湖というのは地理的な琵琶湖でなくて、琵琶湖河川事務所の琵琶湖というイメージです。</li> </ul>
北井	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なので、今後また広がっていくなら、それはそれでいい流れと思っているので、いいと思います。</li> </ul>
若公	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いや、めちゃくちゃ広げようとは思ってないですけども、あんまりきっちり。</li> </ul>
北井	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そうですね、活動しやすいのが。</li> </ul>
若公	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あんまりきっちりみみっちいことを言うつもりもないので、引っかかれば</li> </ul>

		なというぐらいの感じはあると思っていますので。
	中谷	・今おっしゃっていただいた、そういうエリアということであれば。
	北井	・そういうエリアの認識。
	若公	・はい、分かりました。すいません、失礼しました。ありがとうございます。
	中谷	・審議事項、その他も含めてここまでにさせていただきます。
	△中西	・委員長、ありがとうございました。 ・それでは、これをもちまして、73回河川レンジャー制度運営委員会の公開の議事を終えたいと思っております。ちょっと時間が押しておりますので、この後も休憩をせず非公開の審議のほう、執り行いたいと思います。

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, O印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
5. 非公開審議(河川レンジャー審査)	△中西	・これより河川レンジャーの皆様、及び傍聴の皆様はこの会議室からご退室をお願いします。ご退室いただいた後、非公開の審議を開始したいと思います。非公開の審議は、河川レンジャーに応募されました方の審査でございます。この後、よろしくお願いいたします。 ・委員の皆様には非公開の議事の資料をお配りしますので、お待ちください。
	△中西	・それでは、引き続きまして議事のほうを再開させていただきます。これからの議事は非公開ということをお願いいたします。お手元の資料は非公開資料-1という、今、お配りした資料のみになっております。審査の終了後には回収をさせていただきます。 ・ここからの進行も、慣例によりまして、中谷委員長に引き続きお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。
	中谷	・はい。では、非公開審議ということで、レンジャーへの応募をいただきましたので、これから審議を進めていくのですが、まずご本人から説明を聞くということで。
	△中西	・今から入室していただくわけですが、審査の時間、プレゼンの時間とか質疑応答の時間を一応決めておりますので、ご説明させていただきます。全体で15分ということで考えておりました、7分プレゼンしていただいて、8分の審議を設けさせていただきます。これは前回応募された方も、そういう15分の中でされているので、統一しております。 ・質疑応答が終わりましたら、応募者の方、退出いただきまして、その後5分程度、審査の時間を設けさせていただきます。20分程度お願いするのかなと思っております。
	若公	・ちょっと待ってください。僕、初めてなので。ちなみに、それで5分その審査をして、この人を認めます、認めませんという、白黒といたらあれですけども、をつけていって、ということなんです。

△中西	・はい、そうです。
若公	・なるほど。じゃあ、かつて駄目ということが結構あったという理解でいいですか、それとも。
△中西	・はい、そういうこともありました。
中谷	・ありました。
若公	・そうですか。正直言うと、まだ説明聞いていないんですけど、結構、なかなかこれだけでジャッジできるかという不安を、今、覚えていて。活動の計画を、まあまあ、今、これだけで駄目と言うかどうかということとあれですけども、何か活動計画を見て、ちょっとうーんとかということもあるのかなと思うんですけども、その辺ってどういうふうにすればいいですか。もう、「だって、いいって言ったじゃないですか」とか言われるとつらいなと思ったんですけど、その辺ってどういうふうに。すみません、私が聞きちゃいけないんですが。
△中西	・一応、この段階で任命で、その後、活動計画を練っていただく。それがヒアリングさせていただいたら、2月、3月まで練って、3月の委員会がありますね、そのタイミングで計画を出したいとおっしゃっております。
若公	・つまり、もう年度途中からではなくて、そういう話も前にあったような、これ何か6月か9月かにもう出しているみたいな、大分もうお待ちいただいちゃっているのは申し訳ないなと思うんですけど、じゃあ焦って年度中ではなくて、計画を練った上で来年度から、お認めいただいた場合にはスタートと。
北井	・任期自体は何月スタートになるんですか。
△中西	・任期自体は12月10日とかです。任命しましたということで、そこからその計画づくりのためにいろいろ調査されたり、動かれるのは謝金が発生します。
北井	・任期内ということに。
若公	・そういうことですね。承知しました。分かりました。
北井	・それで、1年度はこの3月までで終わって、翌1年度が丸々任期後半の2年度目ということになる。
△中西	・はい。
若公	・じゃあ、あんまりあれですけど、いろいろご検討いただいて、出てきた計画を見て、ちょっととかいうこともなくはないということですね、その年度末の委員会のときに。
△中西	・計画で落とすということは多分ないです。もうここで合格だったら、もう。
△中西	・来年度の末までは行っていただくことには。
若公	・ああ、そういうことですね。なるほど。分かりました。ありがとうございます。

		ます。大丈夫です。
		(応募者入室)
△中西		<ul style="list-style-type: none"> <li>・応募された末吉様をお呼びいたしました。末吉様は先ほど傍聴者として委員会をお聞きいただきましたですし、サポートボランティアとしても2度ほど参加いただいております。そういった中で計画のほうを改めて11月末に再度出していただきまして、今日、ご説明いただくという流れでございます。</li> <li>・末吉様、7分程度のプレゼンで8分の質問タイム、質疑応答の時間を設けさせていただきます。では、よろしく申し上げます。</li> </ul>
末吉		<ul style="list-style-type: none"> <li>・どうも初めまして。末吉隆博と申します。今回、河川レンジャーに応募させていただきました。応募させてもらった理由なんですけれども、自分の得意なのが、写真を撮ったりとか、動画を撮ったりとか、IT系が強いので、そこをお助けできないかなと思って応募させていただきました。</li> <li>・まず、私の活動経験なんですけれども、滋賀県では近江八幡でやっているBIWAKO BIENNALEで撮影等をさせていただきました。これは東近江になるんですけれども、BIWAKO JAZZ HIGASHI-OMI、こちら音楽イベント等で撮影等をさせていただきました。去年からなんですけれども、おうみ未来塾というところで、地域プロデュース実践講座、そちらのほうに参加させてもらっています。</li> <li>・私のほうなんですけれども、今回、ボランティア、2回ほど参加させていただいて、アートを活用した活動がないのかなと思ひまして、今回はアートにからめて活動ができたかなと思っています。</li> <li>・まず1つなんですけれども、これは撮影の経験を生かしてなんですけれども、SNS等で河川の水の中の中の様子、あとは地上で活動されている様子、あとは上空から見たような感じの様子、こちらを写真や動画でアップしていけたかなと思っています。</li> <li>・もう一つなんですけれども、デジタルマップというのがありまして、これは琵琶湖のほうになっているんですけれども、あとは瀬田川と野洲川に特化して、例えばバーベキューができるところ、釣りができるところ、公園とかトイレとか、何か分かりやすくしてもらって、川に行きやすいようなことをさせてもらえたらかなと思っています。</li> <li>・次からなんですけれども、アートを活用しようと思っているんですけれども、大きなものでいいますと、淀川テクニックさんという作家さんがいるんですけれども、海洋ごみを使って、魚の形をした作品等を作られています。</li> <li>・写真のほうを、大きいほうで、ランプの写真を出していただけますか。こちらは水中の映像になっています。</li> <li>・言うの忘れていたんですけれども、自分は撮影と、あとアートが結構好き</li> </ul>

で、全国いろいろ行っているんです。説明には書いていないんですけども、例えばで言うと、大地の芸術祭、新潟だったりとか、横浜トリエンナーレ、愛知トリエンナーレ、滋賀ですと琵琶湖ビエンナーレ、京都ですと京都グラフィーだったり、木津川アートだったり。兵庫のほうですと、六甲ミーツ・アート、あと中国地方になるんですけども、瀬戸内芸術祭というのがありまして、そこでいろいろ行ったりとかして、淀川テクニクさんの作品だとか、こちら、ヨウガンレールさんの作品になるんですけども、こちら京都グラフィーでたまたま出会いまして、沖縄の海洋ごみで作られたものになります。

- できたら、こんな立派なものを作って、行政さんとのほうとアート関係とできたらいいんですけども、ちょっとこんな大きいのは無理なので、アクセサリーのほう、3枚ぐらい送っていただけますか。鶴と野菜の。これ、私、昔、e B e yとか海外販売やろうかなと思って、日本っぽいもので何かできないかなと思って、折り紙をちっちゃくちっちゃく折ってイヤリングにしてみたんです。すいません、写真を送ってください。こちら、いろいろ探して、日本のサンプル食品、こちらを利用してイヤリング等を作りました。
- 今回、提案するのは、また写真を送ってください。何か琵琶湖の形とか、あと「しずくちゃん」とか、何かそんな形のものを使って、何かイヤリングとかアクセサリーができないかなと思っています。活動のところで、清掃活動をさせてもらおうと思っているので、そこで集めたペットボトルとか、その端材を使って、アイロンで温めて形にしたいなと思っています。
- いろいろ調べてみると、クレヨンを溶かしてアクセサリーを作ったりとか、UVレジンのアクセサリーだったりとか、あとはシーリングワックスですかね、手紙とかにスタンプするようなものかあって、何かこの間で、一応清掃したもので利用して小学生でも子どもでもと大人でも作れるものを作りたいなと思っています。
- あと、3番が清掃活動になるんですけども、清掃活動をやって活動をさせていただければなと思っています。
- 一応、活動内容的にはこういった形なんですけれども、あとボランティアで参加させていただいて、野洲川のほうに2名おられて、瀬田川が1人ということなので、多分瀬田川のほうの参加がいいのかなと思っていますんですけども、例えばなんですけど、瀬田川から活動するとすると、例えば大津港のフローティングスクールさん、「うみのこ」さんですね、あそこら辺にちょっと声をかけていきたいなと思いますし、石山寺さんの前に一番丸さんですかね、杵兵衛造船所さんが造られた船があるので、仲野さんのほうに一遍聞いてみたいなど。今はそのぐらいしか思いつかないんですけども、あとは行政と小学生、ターゲットが小学生と多分大人になってく

	<p>と思うので、そこに切り込んでいきたいなと思っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・以上、ご清聴ありがとうございました。</li> </ul>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。では、これから質問等の時間ということでお願いしますが、委員の皆様からいかがでしょうか。ちょっとまず私から。レンジャーのアシスト、ボランティア活動に参加いただいたんですね。そのきっかけというのは、どういうことで。</li> </ul>
末吉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・申し込んだきっかけになるでしょうか。</li> </ul>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい。</li> </ul>
末吉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・去年からおうみ未来塾というのをやっています、その中で琵琶湖に特化して、琵琶湖ですばらしい活動をされている方がおられるんですけど、その担い手不足というのが多分問題になっていまして、それを解消できるとは思っていないんですけども、ちょっときっかけになればな、知ってもらえたらなというところでいろいろ調べていたら、こちらの河川レンジャーさんの募集を見かけまして。例えば、最初思ったのが水中の様子、地上の様子、上空の様子を撮ったものを情報発信できないかなというところから応募のほうをさせていただきました。</li> </ul>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報発信って、今の時代の、ITの道具を使ってすばらしいなと思うんですけど、例えば発信によってどういうことが得られるであろうとか、何かその辺に関してのお考えはありますか。</li> </ul>
末吉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知ってもらおうというところが。</li> </ul>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まずはね。</li> </ul>
末吉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい、まずは。だと思っています。よく来てもらう、次に。で、参加してもらう、体験してもらうという形につなげていけたらなとは思っています。</li> </ul>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。委員の皆様、どうでしょうか。</li> </ul>
北井	<ul style="list-style-type: none"> <li>・では、いいですか。清掃活動を行いますと書いてくださっているんですけど、何か清掃活動はボランティアでも行かれたと思いますし、何か規模によってもいろいろなので、どんな感じのイメージで今のところお持ちかなと思って拝見していました。何か清掃活動って、どういう感じの企画というか、活動にされるイメージをお持ちですか。</li> </ul>
末吉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃活動だけで終わるんじゃなくて、清掃活動をして、そこで集めたごみを利用してアクセサリーづくりをできないかなって思っているんです。1日でできればいいんですけども、できなかつたら翌月にずらしてアクセサリー体験みたいな形で。</li> </ul>
北井	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それじゃあ、そのアクセサリー体験とかも含めて、お呼びかけされて、そのメンバーで清掃活動をして、そのアート体験みたいなものにつなげようかなというようなことですかね。</li> </ul>

	末吉	・はい、そうです。
	北井	・それで、この撮影とかはそういうものと組み合わせてという感じで思っ ていらっしゃるのか、また違う感じなのか。
	末吉	・撮影は、一応別で考えてまして、まずアート、清掃アート活動が一つにな って、SNS発信、ほかのレンジャーさんのイベントに参加させてもらっ て、撮影させてもらって発信していく。 ・もう一つは、グーグルストリートビューとかになってくるんですけども、 川を探索して撮影していくという形で、一応3つぐらいの形で動いていけ たらなとは思っていますけれども。
	北井	・おうみ未来塾は何に入ってるんですか、ご活動は。
	末吉	・「翔んで琵琶湖」といまして、今日こちらにもネットワークのチラシが あったんですけども、後ろに載っていますので、翔んで琵琶湖という活 動グループで入っています。
	北井	・何となく、何かいろいろと活動している人は知っている人がいるので、ご 一緒かなと思って。すいません、ありがとうございます。
	若公	・よろしいですか。役所は、すいません、私が知らないだけかもしれませんが けど、あんまりアート色が弱いと思っているので、非常に今までなかった 視点でいい提案だなというふうに思って拝見しました。ありがとうございます。 ・デジタルマップのほうは、先ほどもちょっとご紹介がありましたけれども、 目的として川のことを知っていただいて、川になるべく人が来てもらうよ うなことというふうに理解しました。そういう理解でよろしいですか。
	末吉	・はい、そうです。
	若公	・今、イメージされているのは、琵琶湖の絵が落ちていますがけれども、対象 としてはどの辺りをお考えかというのを。
	末吉	・一応、瀬田川の河口部、河口じゃないんですかね、河口でいいんですかね、 瀬田川の琵琶湖のところは。
	若公	・厳密に言うと、唐橋よりちょっと上流というかあるんですけども、別に その付近なのであんまりこだわっていませんけれども。
	末吉	・琵琶湖の瀬田川の河口側からこの辺りまで、もっと下まで。
	若公	・もうちょっと下流まで、そんな感じですけど。
	末吉	・そこをメインでしたいのと、野洲川と瀬田川2本ですね、そちらのほうを したいなと思っています。
	若公	・なるほど。非常に、なかった視点でいい提案だなと思っていますし、何も 国管理だけにこだわらないというか、人と川をつなぐということなので、 それがさらにほかのご関心のある方が有機的にどうこうできるとい うような雰囲気になればさらにすばらしいかなと思いますけど、それはちょ

	<p>っと先の話かなと。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アクセサリーのほうは、清掃活動で拾ったごみを活用してということでしたけど、その作ったアクセサリーの用途というか、どういうふうにされるかというのがちょっと気になったので、教えていただければなと。</li> </ul>
末吉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小さいものですとイヤリングにさせていただいたりとか、もし大きくなるとキーホルダーにしてもらおうとか、何か普段身につけてもらえるような形にしたいなと思っています。</li> </ul>
若公	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それはあくまで参加されたとかご協力された方とかがお持ち帰りいただくようなイメージで、どこかで別にお売りになったりとか、そういうようなイメージではないという理解でよろしいですか。</li> </ul>
末吉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今のところは思っていません。参加者さんが持って帰って行って、持って帰ってもらって楽しんでもらうという形で、それでまたこんな作ったよみたいな形で広めてもらったらなと思っています。</li> </ul>
若公	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全然、末吉さんそういうことをお考えになっていなければ、全然、私が失礼なことを言いますが、それで少し営利目的みたいになると、ちょっと多分はみ出してしまうかなというのはちょっとあるので、そこだけすいません、ちょっとお伝えしたかったのだということです。ありがとうございます。</li> </ul>
末吉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そちらは大丈夫です。</li> </ul>
若公	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。</li> </ul>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沼田委員、何か。</li> </ul>
沼田	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本来、清掃活動ということで、ごみは本来ないほうがいいものを、アクセサリーにするということで、先ほど所長さんが言われたように、人と川をつなぐ活動ということでされるのかと思いますけれども、具体的にどの辺を狙いにされているのかちょっと分かりにくかったので教えていただきたい。アクセサリーを作ることに以外に、清掃活動を通じて、ほか何か展開を今後考えていかれるのか、そのあたりもちょっと教えていただければとは思っています。</li> </ul>
末吉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すいません、アクセサリーのどのあたりというのは、具体的にどのところになるのでしょうか。</li> </ul>
沼田	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アクセサリーを作って、皆さん持って帰られるということなんですけど、それ以外に今後活動していく中で、清掃活動を通じて、アクセサリーを作る活動以外の何か取組とかも、今後進めていく上で考えていかれるのか、最終はアクセサリーを中心に活動をされるのかというのをちょっとお聞きしたい。</li> </ul>
末吉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今のところはアクセサリーかなと思っています。ボランティアをさせてもらって、防災訓練だとか水遊びみたいなのがありましたので、被るのもど</li> </ul>

	<p>うかなと思ひまして、やっておられないところを今後見つけていきたいなとは思っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・例えばなんですけれども、水質体験、透明度だったりとか、川にいてるプランクトンだったりとか、何かそこら辺ないかなとは今、考えているところです。</li> </ul>
沼田	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。</li> </ul>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平山委員はつながって。</li> </ul>
△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平山委員は、傍聴としてと言われていたので。特に意見としては。</li> </ul>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分かりました。では、もういいですね。</li> </ul>
△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい。</li> </ul>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・では、時間も来ましたので。</li> </ul>
△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・では、末吉様、ありがとうございました。</li> </ul>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございました。</li> </ul>
末吉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございました。</li> </ul>
△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これから審査のほうをしまりますので、これでご退室いただいてということで、お疲れさまでした。</li> </ul>
若公	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。</li> </ul>
	(応募者退室)
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・では、審査のほうをお願いします。</li> </ul>
北井	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ちょっと事前にレクチャーみたいなことは、少し情報提供されたりはされてあるんですか。</li> </ul>
△中西	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そうですね、河川レンジャーとはというようなところを、去年ぐらいにマニュアルを作っていましたので、その説明は一度させていただきました。その後、レンジャー活動にも参加されてというようなことですね。</li> </ul>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ああいうツールを使って発信してもらおうということに関してはうれしいというか、いろんな視点をお持ちやと思うので。なおかつ、アクセサリーを選んだのもほかのところとダブらんようにやるという配慮だったんですけど。気になるのは、それがレンジャーさん活動の本来の目的のところへ、その発信ということだけで、どう言うたらええんやろう、つながっていくのかどうか。つなげられていくのかどうか。</li> <li>・ご自身はボランティアで参加してやっていたらええんやけど、ちょっとその辺が方向性がね。</li> </ul>
北井	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もう少しあれですね、イメージが。</li> </ul>
中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なかなかちょっと時間が短いこともあり、この資料だけを見ていても、そこに。発信ということの力点、発信の一つのツールとして、こういうものを作って利用してやりますよということはええんやけど。さっきも言うてはったように、プランクトンがどうやかという発信、それはそれでそこか</li> </ul>

		ら広げていくのはどういうところなのでしょうというのが気になっていましたので。難しい。
	北井	・一応、担い手不足を解消させたいなというのが一番の課題意識なのかなと思って聞いていたんですけど、そこにどうやって活動からどうやってつながっていくかというのは、まだまだ今、今日聞いただけではちょっと分からない部分がある。それは、最初の最初なので、分からない部分があって仕方ないのですが。
	中谷	・はなからそういうところがね、なかなか難しい。
	北井	・そういうところを深めていっていただけるようなことがあったら、よりよいかなどは思いますね。情報発信系の活動みたいなのもいろいろあって、LINEアカウントをつくってみるとか、いろいろとされていって、新しい発信の仕方をされるというのは、何かまたそれはそれで。
	中谷	・期待できるところがあるね。
	北井	・どんな反応があるか、まだよく分からない。
	若公	<p>・私もいいですか。大体さっき言ったのと同じなんですけど、やっぱりアートという視点は河川管理者的にはないので、物すごくいいなというふうに思っていて、特に1番は少なくとも水の中まで入って、全天球カメラみたいなもので撮ってもらってというのは全然発想としてはないので、正直どんどんやってほしいなというのがまずあります。</p> <p>・2、3は確かにちょっとどこに行くのかが若干不安はあるので、少しいろいろ計画をつくっていただく中で、いろいろとコミュニケーションをすることですけど、少なくとも1番だけでもチャレンジしていただく、少なくとも今の時点ではじくものではないのかなというのが私の意見です。</p> <p>・さらに言うと、多分、アートにお強い方なので、河川管理者として、そういうアートの人にもうちょっと関わってもらいたい、例えば一例ですけど、瀬田川の河川の看板って、めちゃくちゃ汚いんですよ。ああいうのをもっときれいにしましょうかみたいなご提案とかを、何かいろんな人を引っ張ってきてちょっとこうやるとかというのは、それは河川管理者の側から逆に何かアイデアありませんかというふうにコラボレーションをしてみるとか。何かそういうことも考えられるので、ぜひ、私としてはまずやっていただいて、いろいろ河川管理者とコミュニケーションをするということにして、ちょっと方向性違ったときに、また考えればいいのかというふうに思っています。ということです。</p>
	北井	・いろいろサポートが要るかもしれないなという気がします。
	中谷	・ああ、そうか。審査も時間がある。
	中谷	・厳しいな。

	中谷	・沼田さん、どうですか。
	沼田	・ちょっと話を聞いているだけでは分からないんですけど、他のレンジャーさんと連携したら、いいものができるような気がします。
	沼田	・はじくということは要らないのかなと。連携してやっていけばいいのかな、人が増えればいいかなと思います。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。</li> <li>・では、お願いするという方向で、後々また計画なりつくっていくときに、さっきの河川管理者としての立場のこともあるし、そういうことも踏まえた上で計画をつくっていただいて。やっぱりそういう方面のことって、多分なかなか、川に関するあれってなかったと思うので、その辺はまたサポートしていただいてお願いするという。</li> <li>・そうですね、今も沼田委員言われたように、ほかの人とのところもうまく取り込んで発信してもらおうとか、そういうこともいいと思うので。</li> <li>・では、お願いするという事に決めさせていただきます。</li> </ul>
	△中西	・そしたら、本日付で任命するというようなことで、あさってに郵送のほうを、速達で通知をしたいと思います。
	△松岡	・ですから、ご本人のご自宅には木曜日には配達されてということで、結果は。
	中谷	・あと、こういう方向で進みますよ、方向というのは内容でなしに、事務的手順、例えば計画はどうやとかね、その辺も併せてですよ。
	△松岡	・はい。進めてまいります。
	北井	・水辺の匠に出ている姿がもう思い浮かびますね。
	中谷	・そうやね。仕切り役になるんちゃう。

(太字：決定事項, R印：河川レンジャー, M印：レンジャーマネージャー, O印：一般傍聴者, △印：事務局)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
6. 閉会	△長谷川	・最後になりますけれども、本日は公開・非公開、長時間にわたる審議、ありがとうございました。そうしましたら、これにて、第73回河川レンジャー制度運営委員会を閉会いたします。ありがとうございました。